

---

# 有閑口リヰタ・セクスアリス

理々蔵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

有關口リヰタ・セクスアリス

### 【Zコード】

Z8510R

### 【作者名】

理々蔵

### 【あらすじ】

或る少女の小さな逃避行。そして目覚め。掌編となつておひます。

運賃はいつもより百円高かつた。

たぶん十分にも満たない時間だけ長くバスに乗つていただけなのに、私が降りたバス停は何もかもが初めて見るものだつた。

名前しか聞いたことなかつたバス停では、大勢の人が一緒に降りたけど、すぐにみんな右へ、左へ、信号へ、バラバラの方向へ歩き出した。

初めての場所だつたけど、心細くはなかつた。私の町から地続きだし、バスの道順は覚えていたからいざとなれば歩いて帰ることも出来るだろう。そして何より私には行きたい場所があつたのだ。

下調べは済んでいるので、私は迷わずに歩み出す。このバス停から徒歩十分。ただし不動産の広告に書いてあつた情報なので子供の足なら二十分くらいだろうか。それくらいなら余裕の距離だ。いくら外で遊ばない現代っ子といえども、こちとら健康優良児。体育の成績だつて？ 3？ だつたのだ。ほとんど一本道のはずだし何の憂いもない。

私はMP3プレイヤーの電源を入れた。今日入れたばかりの一曲を指定すると覚えたばかりのフレーズが頭の奥で鳴り響いた。

「いのちみじかしこいせよおとめー」

？ゴンドラの唄？を口ずさみながら、私は歩く。あまりランランと弾ませるのは、イメージじゃない。しんしんと、切なげにメロディーを紡いで、目的地に向かう。

途中の道のりは、住宅街だつた。右を向いても左を向いても家、家、家。平日だけあつて閑静という言葉がぴったり当てはまる。そ

んな中私のような就学児童が歩いているのはいたさかまづかつたかもしだれない。

「学校はどうしたの？」

と誰かに訊かれたらいだつ答えるべきか。歩きながら歌いつつ思案する。「開校記念日で休みなんです」、だめだ。調べられたならばれる嘘はつくべきじやない。そもそもランドセルを背負つてゐる私はなんだ、馬鹿か。笑顔で「サボリです」とかどうだらう。堂々と言つたら向こうも笑つて見過ごしてくれたりしないだらうか……しないだらうな。中高生ならまだしもやはり小学生では難しい。見た目にもぐれてなさそな私だし。結局「早退しました」くらいがいい気がする。仮病とは非常に便利なものだ。体調が悪そうなフリくらいい、簡単だし。

ところがせつかくいろいろ考えたにも関わらず、誰にも声をかけられることなく私は公園にたどり着いた。

とても小さな公園だ。想像してたよりぼろく、遊具もろくにありはしない。野球なんてするとセカンドフライがライトスタンンドインして隣の家の窓ガラスにジャストミートしてしまいそうだ。中に入ろうと入り口に回ると、所々さびた看板に「あぶない！ ボールあそびはいけません！」と書かれているのを見つけた。公園でボール遊びが出来ないなら、こいつたいじこでキャッチボールすればいいんだろうと思つたけど、まあキャッチボール用当てにここまでやつてきたわけじゃないからどうでもよかつた。

「あつた！」

私の目的はすぐに見つかった。小さな公園の隅っこに、ひとつだけある遊具。鉄の支柱から一本の鎖で木の板をつるし上げた、きつとどこにでもあるようなブランコ。

これだけのために私は学校をサボリ、バス代を余計に払い、ここまで歩いてきたのだ。

遊具の代表格とされるブランコのくせして、私の家の周りにはブランコのある公園がないのだ。学校のグラウンドにはブランコもあ

るけど、あれはなんだか風情がない。調べた限り、この公園が私の家から一番近い？ブランコのある小さな公園？だった。

公園には都合よく、小さな子供連れの母親も、リストラされた中年元サラリーマンも、散歩中の老人も、無職住所不定の人も、誰もいなかつた。

私はさつそくブランコに乗つた。ぎいぎい、不快な音が鳴つたけど、この不快さが逆に今は心地よい氣もする。

「いのちみじかしー」

イヤフォンを外し、空で口ずさむ。

昨日みた映画の真似だ。主人公は雪の夜、こうやつて歌いながら

ブランコをこいで、死ぬのだ。

もちろん私は死ぬつもりはない。今は昼だし、そもそも春で、雪なんて降りっこない。ただ真似がしたくてここまでやつてきたのだ。だからもう満足。少しばかりの暇つぶしにはなつたし、十分に楽しかつた。

そろそろ学校から家に出席していないという連絡が入つて、親もあわてている頃だらう。部屋に残した書き置きも発見されているかもしれない。

GPSで場所を把握されている携帯は置いてきたけど、ヒントはちゃんと残してきたからここが見つかるのも時間の問題だ。

それまでの間に次の暇つぶしを考えないといけないな。映画の真似は一番煎じだし、狂言誘拐も一昨日やつたばかりだ。

「さて、どうしようか」

私はブランコの上に立つた。男子たちがよくやつている立ちこぎというやつだ。自分では初めてだつたけど、格段にあがつたスピードは確かに気持ちいい。男子たちの気持ちも少しは理解できた気がする。

「おつと」

ちょっとスピードがつきすぎたせいで、ポケットからプレイヤーが落ちてしまった。ブランコから降りて、拾いに行く。

弾みでイヤフォンが外れ、内蔵スピーカーから音が聞こえてきた。  
「いのち短し、恋せよ少女」  
なるほど、いらっしゃるもいいかもしない。

(後書き)

お読みいただき感謝します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8510r/>

---

有閑口リヰタ・セクスアリス

2011年6月5日08時25分発行